

事業所名

児童発達支援 にじいろ

支援プログラム（参考様式）

作成日

R7

年

3 月

1 日

法人（事業所）理念		医療的ケアの必要な子供たちに、安心してお友達と遊び、学べる場所を提供する					
支援方針		医療的ケアが必要なため、幼稚園に行けない。感染が心配で遊びの場へ行けないこども達のためのお友達と出会える場・遊び場・学びの場を目指しています。遊びの中から社会性が芽生え、遊びをとおして育っていきけるよう支援します。					
営業時間		8時	30分から	12時	30分まで	送迎実施の有無	あり なし
		支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	来所時「消毒・体温・SP0 ² ・HR」の測定、利用者の健康、気分等把握をし、その日の状態を見て適切な対応をする。必要に応じて保護者と連携を図る。事業所に到着したら、行う事（消毒、各測定、荷物の片付け等）を身のまわりのすべきことを理解しやすいよう意識した環境を整える。（視覚的に分かるよう絵カードや目印を使い具体的に表示）家庭での生活に支障がないよう、生活リズムの調整を図る。					
	運動・感覚	利用者の障害特性に合わせた活動を提供し、日常生活に必要な動作の基本をなる姿勢保持や体の各部分の機能強化を図る。発達段階及び特性に配慮した視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できる活動を提供し、体を動かす楽しさを学ぶ。意識して体を動かし、健康に配慮した生活を送る。					
	認知・行動	利用者の出来る事を把握し、視覚、聴覚、触覚等の感覚を活用して認知機能向上を促すための活動を提供する。数の違いや形や大きさの違い、自分の好きな色や嫌いな色等、自分自身で区別が付けられるよう、具体的な提案を行う。聴覚過敏や接触過敏、衝動的な行動障害等に対して、環境を整える等の予防策を講じ、適切な支援を行う。					
	言語 コミュニケーション	具体的な体験と言葉の意味を結びつける等により、適切な言語の習得、自発的な発生を促す支援を行う。利用者の発達段階に応じた言葉や文字・記号を用いて相手の気持ちや自分の考えを伝える等、表現できるように支援を行う。コミュニケーションの手段として絵カードやジェスチャー、サイン等利用者それぞれ対応できる手段を選定して、理解と意思の伝達が出来る機会を増やし、スムーズにコミュニケーションがとれるよう環境及び関わり方を調整する。					
	人間関係 社会性	身近な人との親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人とより良い関係が作れるための支援を行う。遊びを通じて、人の動きを見て真似てみたり、一緒に同じことをやってみたりすることで社会性の発達を支援する。利用者の発達段階や特性に応じた環境整備並び関わり方の提案を行い、利用者自らが自発的に集団に参加し、手順やルールを理解して遊びや集団活動に参加出来るように支援していく。					
家族支援		家族行事等の預かりニーズに出来る限り対応し、必要に応じて延長支援を行う。利用者の発達状況をお互いに把握しあえるように、定期的に情報交換を実施。				移行支援	希望の進路先を見据え、本人・保護者との相談援助を実施
地域支援・地域連携		利用者がスムーズな生活が送れるよう、主治医、訪問看護、相談員、併用している他の事業所との連絡調整や連携を実施。				職員の質の向上	年間研修計画に基づき、計画的かつ定期的に研修を実施する
主な行事等		お誕生日会、夏祭り、クリスマス会 他、季節の行事を不定期に実施。					